



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第31号

2021年11月7日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

「2021 SP研修会」の感想まとめ

11月7日、町勤労福祉会館で開催された「SP研修会」で、SPのみなさんが書いてくれた「感想」を掲載します。ぜひご覧ください。感想を読ませていただき、どのSPさんもととても充実した時間を過ごしてくれたのだと嬉しくなりました。また、「こんなことを思ってくれていたんだ」「感じてくれていたんだ」「学んでいるのだ」と新たな発見もありました。参加したみなさん、お疲れ様でした。

またぜひ研修会に参加したいです。講演は中身がぎっしりで、今日参加できていない友達にも伝えたいです。算数の授業について、教育実習での自分の姿を思い出し、反省しました。「この内容を教えれば良い」「子どもはブロック操作が好き」といったことから考え始めた、完全に「これまで」の授業でした。評価についての考え方、子どもが話を聞いていない＝教師に原因がある、その授業の中身で一番大切な箇所はどこか、その発問や活動が本当に適切か、主体的とはどんな姿か、など様々な学びと気づきがあり、とても勉強になりました。今までの自分を反省しつつ、先生方の様子を見て考え、それに対する子どもの様子を見て、研修会等で学び、これから関わる子ども・学校によりよく接することができるように勉強を続けていきたいです。SPのワークショップでは、テーマ以外にも、他の市町のボランティアや教員採用試験のことなども話しました。これからも東浦のSPとして、よろしく願いいたします。

〔愛知教育大学教育学部3年〕

中村先生の前半部のご講演は、教師の仕事で最も大事な授業作りで重要なことを教えていただきました。既習のこともありましたが、改めて考えさせられました。先日、教育実習に行き授業を何度かしましたが、授業反省を自分でどういう観点ですればよいのか、ということも教えていただいたようにも思います。まだ子どもに向けて授業をする経験が積めていないものの、今回お聞きしたことを手がかりに、現職として授業をして、経験を積んでいったり、授業づくりや反省をしたりしていきたいです。また、本日、他のSPの方と交流ができて本当に良かったです。普段はウィークリーSPが1～2人しかいませんが、集まるとこんなにも同じ気持ちを持った人がいるのかと嬉しくなりました。またSP同士の交流を深めるような機会が欲しいです。〔名古屋大学大学院修士2年〕

学校の授業で、評価についてよく分かっていなかったり、つかめていないところがあったりしたのですが、今日の講義でそれがわかったところがありとても勉強になりました。学び方の変革のために、教師としての意識の変え方もつかむことができました。SP同士の交流では、他のSPが何をしているかなどを知ることができ、繋がりを持てたことがとても良かったです。SPとしての活動で、今日話し合っただけの意見を参考にしながら、学んでいきたいです。また、中心発問の難しさをととても感じました。「何を学ぶのか」を明確にし、そことのつながりを意識した授業構成を作れるよう、今後のSP活動や大学で考え、自分が教師になった時の力になるように努力していきたいです。

〔愛知淑徳大学健康医療科学部3年〕

「教師が話そうとすると、生徒が静かになる」自分が小学校・中学校・高校を経てこのような現象が起きる授業は何度か経験しました。その時を振り返ると、その授業をしてくださった先生のことが好きだったり、尊敬していたりしたと思います。また、その先生が話をするから、他の子は静かにして欲しいとも思っていました。「教師が話そうとすると子どもが静かになる」本日の研修会で最も心に残ったワードであり、自分はこういう授業が出来るようになりたいと、新たな目標にもなりました。挙手をして発言することは価値が高いのか？授業中に静かにしていることはそんなに大切なことか？という、自分が常識だと思っていたことの必要性を考える機会をいただきました。本当にありがとうございました。学びの深い時間でした。

〔名城大学理工学部2年〕

本日はありがとうございました。非常勤講師として2年間勤め、来年から常勤又は正式任用として働くことになったため、初心を思い出すために大学生に混ざって参加させていただきました。授業づくりを見直すきっかけになり、明日から少しでも授業内での生徒との関わり方、普段の生活の中での生徒との関わり方など、改めて考えるきっかけになりました。この活動は教職を志す学生と学校と繋がって、互いに学び合える良い場だと思います。私も短い期間でしたが、SPとして活動できたこと、そして、卒業してもこうして大学生に混ざって学習する機会が得られることが、大変貴重な体験です。この経験を活かすことができるよう、明日からの勤務に向かいたいと思います。

〔2019年度シニアSP〕

主体的な学びを以前の指導要領や現場での視点を交えて考える機会になりました。子どもたちが主体的にめあてに沿って考えられるように教師がしなければならないのだ、というお話が印象に残りました。実習で、自分が授業をした時も、子どもたちのためにと思いながら、私がやりたい・進めたいことをやっていた反省もあったので、子どもたちが主体的になれる授業にするために実際どうしていくべきか、具体的に学び、実践していく必要があると考えました。そういった意味でも、これからSP活動を始めて、学校現場を見ることは自分が教員になった時のためにもなると思いました。話し合いの中でいくつか出た、学校がSPに求めているであろう「大学生、先生、そして子どもという3者の視点」を大切にこれから活動したいと思います。

〔愛知教育大学教育学部3年〕

長い時間ではありましたが、とても有意義で一瞬で終わってしまいました。来年から働くことを考えると不安が大きいのですが、こういった勉強会などを重ねることで不安が軽減されていくので、これからも参加していきたいです。また、今回は話を聞くだけでなく、大学生同士の話し合いもあり、とても楽しかったです。普段、どんなことを意識して活動しているのかなど、SPとしての力の向上に繋がる話をたくさん聞くことができ、勉強になりました。こういった大学生同士の関わり合いの機会はどんどん欲しいなと思っています。次回、またこのような研修会を開催していただけるのであれば、より実践的に授業を考えたり、子どもの対応を考えたりしてみたいです。ワークショップの時間もたくさん欲しいです。本日はありがとうございました。

〔岐阜聖徳学園大学教育学部4年〕

中村先生の研修会は10回弱出ていると思いますが、毎回新しい気づきがあります。資料も必ず取ってあります。何回も聞くと同じ話ということがありますが、それでも新しい学びや気づきがあります。何回も聞き、資料を読み、早く自分のものにしたいと思っていますが、そんなに簡単なことではありません。SPとして実際に現場を見ると、中村先生の仰っていることは正しいと思うばかりです。これからもたくさん学んでいきたいので、また研修会をやっていただきたいです。物理的に行ける距離ならどこからでも駆けつける予定です。あと数ヶ月で現場に立つので今を頑張ります。ありがとうございました。

〔名城大学理工学部4年〕

「主体的な学び」をつくり出すために、中心的な学習場面をどこに設定するのが授業（主体的な学び）を作る柱になるということを学びました。自分はこれまで、導入部分を最も重要であると考えて、一番時間をかけていたので驚きました。また、中村先生の話し方やパワーポイントの使い方も良い勉強になりました。これからパワーポイントやワードなどを使った授業も増えていくと思うので、パワーポイントやワードを使った「伝える力」「伝える力」ということも考えていきたいです。

〔愛知淑徳大学文学部2年〕

本日は貴重なSP研修会を開いていただき、ありがとうございました。今日の1番の学びは「子ども主体に考えて、何を学ばせたいのか」という事です。どのような議題でも最終的に行きつく答えはここにつながると思いました。私は今まで「自分ならどう動くか」という事を考えながらSP活動を行っていましたが、これからは、その先である「私の行動・言動で児童生徒がどう動けるようになるのか」という見方をして、活動を行いたいと思いました。また、説明しすぎてしまうと「つまらない」と感じる人が多いと私自身も学生時代に感じてきました。中村先生のような対話も入れながら“主体的”を心がけた授業を行っていきたく思いました。またぜひこのような研修会に参加させていただきたいです！よろしくお祈いします。

〔名城大学理工学部4年〕

参加して本当に良かったです。ずっと教育に関わるボランティアは何かないか検討していましたが、このような活動があると知ることができ、良かったです。自分自身にも、現場の教師や子どもにも利益がある活動だと思います。自分の意見だけでは、学生側の利益が大きいと思っていました。教育実習以外でも現場に出られるし、現役の先生の授業法もたくさん見られるし、生徒と関わることができるからです。ワークショップで話し合う内に、学校外や子どもたちがSPを求めていることが多くあることを理解しました。考えてみれば、1人よりも2人いた方が細かい指導にも繋がるし、困っている生徒へ個別に対応できます。子どもにとっても見た目が若い私たちに気軽さを感じるのは当然だと思います。海外の「誰も取り残さない授業・学校」にこの活動は似ている部分があると感じました。日程や距離的にウィークリーSPでの活動が難しいですが、どうしてもやってみたく思ったので、4年生になったら再検討してみようと思いました。それまでは長期休みに参加したいと思えます。ありがとうございました。

〔名古屋外国語大学現代国際学部3年〕

今回初めてSP研修会に参加して、とてもたくさんの大切なことに気づきました。また、私は周りにSPをやっている人もおらず、情報もまったく無い中だったので、どういったことをするのか、何が必要とされているのか、また、なぜ皆さんがSPに行かれるのかなど、細かく知ることが出来て、本当に充実した時間でした。正直、最初は「時間が長いな」と思って話を聞いていたのですが、「もう終わったの？」という感じで、本当に時間があっという間に過ぎました。中村先生が話してみえる内容も本当に共感する所が多く、先生たちは先生たちで忙しいのもありますが、生徒にとっては一人の立派な先生なので、学ばせる・育ませる力を第一に考えて、主体的に取り組める授業づくりをしていけるようにこれからもっと勉強とSPでの経験を通して深めていきたいと思えます。他の学生の方々が話した内容もすごく深く、こんなに小学生・中学生の授業に対して考えることがあるのだと、とても感心して、憧れの目で見ていました。よりSPに参加したい気持ちになりました。大学の授業はいつも途中で眠くなったり、ぼーっとしてしまったりすることがあるのですが、今日はまったく疲れず、集中して聞くことができました。ありがとうございました。

〔愛知大学国際コミュニケーション学部2年〕

研修会を通して、吸収できることがたくさんありました。実際を経験して、見ている中村先生が仰っているので、教師側からの視点を聞くことができました。学習指導要領が変わって、大学の授業でも話を聞きました。言葉としては理解しているけれど、これを実践する手立てというのは学生自身ではなかなか思い付きづらいというのが現状でした。指導案を真似てみてもいまいち実際に指導する姿が見えてこなかったです。今回「主体的な学び」にフィーチャーした回でしたが、自分の中でパットしたような気がしました。先生がきちんとした裏回しや計画は立てていくけれど、本番で児童生徒がどう動いたかを見なければならぬのだと感じました。教室の雰囲気づくりが必須となってきて、教科ごとの中学校等でも教科担任制という「担任」が付くので、この点は意識しなければと思いました。評価の観点の捉え方・考え方を、学生だからこそ柔軟に考えていこうと思いました。

〔名城大学法学部3年〕

大学で教育学の講義を受けた際に、今回新しくなった学習指導要領における評価の妥当性について考えることがあり、その時には「主体性の意味を間違えた（発言に偏った）評価を行うことで、内向的な子どもへの正当な評価が行えない・意欲を生かしてあげられない」という結論にいたりました。しかし、今回の研修会では「内向的な子ども」だけでなく全ての子どもが正当に評価できない危険性を有していることもわかり、主体的な学びを創り出すための授業の計画もとても難しいことだと感じました。ただ、難しいことだとしても今後教育に関わる者としては、主体的な学びを創り出す授業を試みていくことが大切だと思いました。ワークショップでは、先輩SPの方々から実際の活動の苦労・失敗したことについても聞くことができ、今後の活動も責任を持って参加させていただきたいという気持ちが強くなりました。本日はありがとうございました。〔南山大学人文学部3年〕

中村先生のご講演では「主体的な学びを作る」ために大切にすべきことがとても理解できました。まず、実際の授業例を見て中心的な学習課題を考えることがとても勉強になりました。これからは、中心課題から考えるように授業を組み立てていきたいと思いました。他にも、教師が話す時間を減らすなどのたくさんの学びがあり、SPや将来現場に立った際に活かしていきたいと感じました。学生同士の話し合いの場もとても勉強になりました。私はまだSP活動をしたことがないので、普段どのような活動をしているのか、どのようなことを大切にしているのかを聞くことができ、SP活動に活かしていきたいと感じました。他のグループの意見も聞いて、これからSPとしての活動をする上で大切にしたいことを考えることができ、積極的に学びに向かう姿勢を大事にしたいと感じました。今回、参加することができて本当によかったです。〔愛知教育学部教育学部3年〕

本日の研修会で「今、授業に求められているものは何か」について学ぶことができた。最近まで教育実習をさせて頂いた中で、SPでの活動が大きく役立った。それは現場での雰囲気のコントロールである。教師が話す前にあえて何も言わずに静かにすることで同調が生まれた。しかし、今回のテーマである「主体的な学び」を養う中で、このやり方が本当に正しいのか考えるきっかけになった。生徒同士が各自で話し合っている姿をどう学習に結び付けていくのか、また、教師の話聞いていない生徒を怒るのではなく、教師がどう話を工夫するのか、視点を变えるだけで改善できることがたくさんあることを知った。最後の討論では、他大学の人たちと今までの学校現場での経験を交換するよい機会となった。今後このような機会があったら積極的に参加し、SP同士の横の繋がりを大切にしていきたい。

〔至学館大学健康科学部3年〕

今回の研修会を通して感じたことが3つあります。1つ目は、大学の講義だけでは学びきれないことを学べたことです。大学では「指導要領が変わった」「主体的な学びが必要」ということは学びましたが、なぜ変わったのか、主体的な学びはどのようにしたら良いのかということはまでは考えることは出来なかったのが、今回の講義を通して疑問を解決することが出来ました。2つ目は、先生の指導方法や考え方は固定観念であることが多いということです。私はずっと、挙手をして発言をすることや良い姿勢で静かに授業を受ける事が大切だと思っていました。しかしそれは、思い込みであるということに気づきました。今まで、高校や大学で学校現場にお邪魔させてもらったときに、つぶやきの多いクラスは、自ら発言して行動している子が多かったと感じ、主体的な学びはクラスの雰囲気から作り上げていくことができるということを学ぶことが出来ました。3つ目は、他学年や他大学の方との交流を通して、自分の考えをさらに深めることが出来ました。コロナ禍や大学までの距離が遠いということもあり、なかなか他の大学の方とお話する機会がなかったため、上級生の方が何をいまっているのか、SP活動についてもたくさん知ることができて、ますますSPや教員の仕事に興味を持つことが出来ました。

〔岐阜聖徳学園大学教育学部3年〕

今まで学校の授業では、学習指導要領の改訂について、3つの柱になったのだとしか思っていませんでしたが、今回のお話を聞いて、いかにこの3つを達成させることが難しいかを知ることが出来ました。「主体的な学び」と一言と言っても、これは知識や思考・判断・表現に繋がるものでなければ、どれだけノートを綺麗に取っていても、手を挙げていても、良い評価にはならないのだと驚きましたが、とても納得することが出来ました。そう考えると、今まで自分が受けてきた「手をいっぱい挙げれば内申が5になる」とか「ノートを綺麗に取ればA評価をもらえるから頑張ろう」という思いは間違っていたのだなと思いました。また、主体的な学びを評価するには、それが出来る授業をしなくてはならず、算数や道徳の実際の授業例を見て、何を主発問としていくのか、ねらいに迫った内容にするにはどうするかなど、本質的な学びを知ることが出来ました。この「知ったこと」「学んだこと」を大学の指導案作りや模擬授業に取り入れていき、さらにこれから参加させていただくSP活動で、見て学んでいきたいと思えます。今日は貴重な体験をさせていただいてありがとうございました！

〔至学館大学健康科学部3年〕

現場の先生方や東浦町長からもご感想をいただきました。

- ・大学生だけでなく、現職の教員にも聞いてもらいたい内容だった。
- ・自分自身もとても勉強になった。
- ・現場を本当に理解されている中村先生のお話を聞いたSPさんは、本当に恵まれていると思う。
- ・今後も自分たちにとって大切な「未来の仲間」を町として育てていきたい。
- ・ワークショップ、高い志にふれて心が熱くなった。SPさんの質の高さに驚いた。
- ・東浦町に根付いたこの「学生文化」は素晴らしいと強く感じる。
- ・SP活動で現場感覚をたくさん学んで、失敗して、良い先生になって欲しい。
- ・学生たちが生き生き話をしていたことが印象的。
- ・SPの経験があり、自分なりに感じたり考えたりしたことがあり、それを交換しようという意欲が湧く。それだけの体験をしたからだと思う。